

事業名称	出雲文化活用プロジェクト—手銭家資料を活用した江戸時代の出雲文化の発掘と再生事業			
実行委員会	出雲文化活用プロジェクト実行委員会			
中核館	公益財団法人手銭記念館			
	住所	〒699-0751 島根県出雲市大社町杵築西 2450-1		
	TEL	0853-53-2000	FAX	0853-53-2000
	ホームページ	<a href="http://www.tezenmuseum.com">http://www.tezenmuseum.com</a>		
構成団体	島根大学法文学部山陰研究センター、島根大学附属図書館			
事業開始時点の課題分析	手銭記念館は手銭家に伝来する美術工芸品、日用品、多様な文書類などを所蔵している。このうち文芸関係資料については、島根大学山陰研究センターと共に調査を行い一部の文芸資料については島根大学附属図書館のデジタル・アーカイブで公開し、平成 26 年度からは文化庁助成による調査研究や外部への発信事業により、所蔵資料と当プロジェクトの成果が外部諸機関に認知されつつある。このような地道な資料調査、研究の深化、および成果の発信を平行して随時おこなう必要性を強く感じている。			
事業目的	<p>本事業の目標は、江戸時代中後期の出雲地方の生活文化の様相に関する調査を進め、できるだけ幅広い層の地域市民に広く伝えること、および出雲地方を訪れる国内・海外からの観光客に対して新たな旅の切り口を提供することである。</p> <p>伝来する各種資料の調査研究は、これらの事業を進めるために必要不可欠であり、江戸時代の歴史的、社会的、文化的な研究においても大きな意味を持つ。</p> <p>調査研究によって新たに発掘した文化的資源は、地元地域の観光振興に付加価値を加えることが期待できる。また、身近な郷土の歴史と文化を地域市民に感得してもらい、郷土の歴史と文化への理解を深めてもらうことにもつながり、これまで注目されないまま破棄される恐れがあった地域の資料群に一般の人々の目を向け、保存するきっかけとなりうる。</p>			
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出雲地方に残っている、江戸時代から続く文化や資料を継承するミュージアム 7 館を、新たな視点で紹介し広く情報を発信するための英語版ウェブサイトを作成した。</li> <li>2. 江戸時代の和室、しつらえの中で、江戸時代の料理などを再現した献立を体験する「和食体験プログラム」を立ち上げる準備として、これまで行ってきた「料理ワークショップ」を基に献立を選び、4 組の料理を試作し、写真ならびに動画を撮影。(次年度以降、これらを活用し、観光事業とリンクさせることを目指す)</li> <li>3. 所蔵資料を活用したアウトリーチ活動として、昨年度まで継続しておこなってきた所蔵文書をテキストとした連続講座「古典への招待」、体験型ワークショップ「料理ワークショップ」「大社 能を知る集い」を今年度もおこなった。</li> <li>4. 調査、研究、活動の連携と成果を広く知らしめるため、島根県立古代出雲歴史博物館、島根大学附属図書館での展示を行った。</li> <li>5. これらの情報を、SNS を活用して積極的に発信した。</li> <li>6. 島根大学と連携しながら進めてきたデジタル化資料の内容調査、研究の成果を各事業に随時反映させていくとともに、(公財) 図書館振興財団の助成事業として、手銭家の蔵書資料や文書資料及び本プロジェクト報告書を、クラウド型デジタルアーカイブシステムである A D E A C から公開した。</li> </ol>			

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</li> <li>□イ ユニークベニューの促進</li> <li>□ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</li> <li>■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</li> </ul> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</li> <li>□イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</li> <li>■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</li> <li>□エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</li> </ul> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</li> <li>□イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</li> </ul>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>ウェブサイトの主旨については、観光、文化振興、歴史研究等様々な分野の方から興味を示していただいている。今後、取り上げた7館の連携を強め、ウェブサイト内容の充実とプレゼンテーションにも活用することで、新たな連携や事業展開が期待できると考えている。</p> <p>SNS 広告の良いところは地域を絞り、美術、伝統文化に興味のある層へアプローチできる点であり、広島県、岡山県、山口県、鳥取県、島根県に在住の方に向けて広告を行った。総括的で客観的な数字でいうと、SNS の広告を初めてから Facebook の「いいね！」が 55 増え、223 から 278 になり、24.6%増となった。また、具体的には例として【能ワークショップ：能と狂言の世界～事始めから未来まで～】では、4,350 名にリーチし、98 名が興味ありと回答。うち 71%は女性だった。</p> <p>ワークショップ、連続講座などは継続してきたことで次第に周知され、今年度は SNS 広告の効果もあって、能や料理再現への他地域からの参加者も増えた。アンケートでは、内容に関しての好意的な評価、継続を希望する意見が多い。まだ、自主事業として成り立たせるところまではいかないが、もう少しなのではないか。</p> <p>また、テキストとして取り上げる為の準備の中で、資料についての新たな知見や疑問等が生まれ、それらが次の研究や展示、アウトリーチのテーマにも繋がる、という循環が出来てきた。</p>